

# 平成 28 年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業 「子供クロスカントリースキー教室」事業報告書

## 1 事業実施の背景

都市化、少子・高齢化、情報化、地域社会や家族の変容など急激な社会の変化の中で現代の青少年は様々な課題を抱えている。子供の体力・運動能力は緩やかな向上傾向にあるものの、体力が高かった昭和 60 年度と比較すると、依然として低い水準にある。

また、北海道の子供の体力の現状として、毎年行われている「全国体力・運動能力調査」では小学校・中学校とも全国の中で低い水準となっている。

このことを踏まえ、交流の家のキャッチフレーズ「クロスカントリースキーの大雪」の名のもと、子供の体力向上と仲間との交流を目的に実施している 5 年目を迎える事業である。

事業の中では、冬の野外活動への興味関心を引き出す試みとして、クロスカントリースキーのみでなく、「大雪冬のレクスポーツの祭典」に参加する機会も設け、屋外での遊びを仲間とともに楽しく体験させるよう企画した。

## 2 事業趣旨

- (1) スキーを活用した野外活動をとおして、身近な冬の自然に親しむ態度を養う。
- (2) 冬の体力向上や望ましい生活習慣の大切さについて理解する。
- (3) 異年齢による遊びをとおして、友達との関わり方や集団遊びの楽しさを体験する。

## 3 主催

北海道「体験の風をおこそう」運動推進協議会

## 4 主管

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

## 5 後援

北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長会  
上川管内教育委員会連合会 美瑛町 美瑛町教育委員会

## 6 事業概要

- ・期日 平成 29 年 2 月 25 日（土）～26 日（日）（1 泊 2 日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 美瑛町及び近隣市町村の小学校 3～6 年生
- ・定員 50 名
- ・講師 Office B-TECH 代表 川上 敦 氏  
国立大雪青少年交流の家職員

## 7 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 参加者数
- (2) 参加者の満足度

## 8 広報

参加の主な対象者としている、上川管内各小学校の全対象児童一人に学校を通じて配布を行った。

## 9 参加者人員・類型

参加者 62名

内訳 学年別 : 3年生 23名  
4年生 16名  
5年生 12名  
6年生 11名

市町村別 : 美瑛 2名  
旭川 37名  
鷹栖 4名  
当麻 2名  
上川 1名  
東神楽 3名  
上富良野 5名  
富良野 8名

## 10 事業日程・内容

### (1) 日程

	10:20	11:00	11:15~12:15	12:30~13:30	13:30~16:00	16:00~17:00	17:00	17:15~19:00	19:00~20:30	20:30~22:00
2/25 (土)	受付	開会	クロスカントリースキー① 「道具を準備しよう」	昼食	クロスカントリースキー② 「道具になれよう」	休憩	つどい	夕食・休憩	仲間との交流 「雪あがりを楽しもう！」	入浴・就寝

	7:15	7:30	8:00~8:30	9:30~11:30	~12:00	12:00~13:00	13:00~15:00	15:00
2/26 (日)	つどい	朝食	事前準備	クロスカントリースキー③ 「冬の森を満喫しよう」	後片付け	昼食	仲間との交流 「交流の家冬まつりに参加しよう」	解散

### (2) 概要・運営のポイント

- 新たな友達づくりにより、交流の楽しさを感じられるよう、班編成にあたっては違う小学校の子供で構成した。
- 各プログラムについては、体験の時間をより多く確保できるよう、説明時間を短くして運営を行った。
- クロスカントリースキーの技術だけでなく、仲間と交流する時間を大切にするため、夜の活動として、雪上においてキャンドルを灯してレクリエーション活動を行った。
- 仲間との交流を一層深めるため、「大雪冬のレクスポーツの祭典」に参加する機会を設けた。

### (3) 各プログラム内容

#### ①クロスカントリースキー①「道具の準備」

開講式の後、グループ毎に準備をしてあった道具を受け取り、川上講師による道具の説明、着脱練習を行った。子供達は、初めて扱う細いクロスカントリースキーの板に興味津々だった。

その後、簡単な体操を行い、午後からの実践に備えた。



② クロスカントリースキー② 「道具に慣れよう」

グラウンドで実際にスキートレーニングを行った。板の滑らせ方、腕の使い方を練習した後、グラウンドに設置していた周回コースを何度も回った。途中小さな雪の山を作り、その山から滑りおろる練習も行った。

子供達の上達は目で見てわかるほど早く、真剣に行う表情が印象的だった。



③ 仲間との交流① 「雪あかりを楽しもう」

雪山に小さい穴を掘り、そこにキャンドルを置いて火をつけるスノーキャンドルづくりを行った。

点火後は、全員でひとつの輪を作りレクリエーションを行った。

子供達からは、「とてもきれい」との声があり、夜の雪の魅力を体験することができた。

④ クロスカントリースキー③ 「冬の森を満喫しよう」

初日の体験をもとに、「平らなコース」「山あり谷ありコース」の2つの中から自分の能力に合ったコースを選択し、スキーを行った。

平らなコースではグラウンド周辺を、「山あり谷ありコース」では、交流の家周辺の森の中で行った。

子供達からは、「自然を感じる事ができて、とても気持ちよかった」との声が多かった。

⑤ 仲間との交流② 「交流の家冬まつりに参加しよう」

同日開催していた「大雪冬のレクスポーツ祭典」に参加した。

バナナボート体験、チューブスライダーやもちつき体験など、様々な体験ブースの中から自分たちで体験指定ブースについて話し合い、様々な野外体験を楽しんだ。

1 1 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

・満足	51	82.3%
・やや満足	10	16.1%
・やや不満	1	1.6%

(参加者の声)

- とっても楽しかった
- いろんな人と友達になれてよかった
- いろいろな体験が出来てよかった
- 歩くスキーが楽しかった。

(2) プログラム

・満足	54	87.1%
・やや満足	8	12.9%

(参加者の声)

- クロスカントリースキーがとても楽しかった
- クロカンで自然に触れることができてよかった

○自分のためになったと思う

### (3) 事業運営

- ・満足 49 79.0%
- ・やや満足 13 21.0%

### (4) その他参加者の声

- クロスカントリーがすごく楽しかった
- 新しい友達が出来たり、その友達と活動できたりして、楽しかった
- 最後まであきらめなくて友達と協力できた
- 自然を感じれてよかった
- わかりやすく説明してくれ、スキーがすぐにできた
- ふかふかな雪の上を歩いて気持ちよかった
- たくさん友達ができてよかった
- 全く知らない人と班になって不安だったけど、楽しかった
- 5分前行動がしっかりできたのでよかった
- ここで学んだ集団行動のしかた、クロカンの楽しさを生かしていきたい

## 1 2 事業の成果

### (1) 事業背景の達成度

募集開始から1週間ほどで定員を超える応募があった。参加した子供たちの中には、クロスカントリースキーを初めて体験する子や、普段は外で遊ばないという子が多かったが、アンケート結果からも、楽しかったという声があり、外で遊ぶ楽しさを伝えることができた。

また、新しい友達との交流によって、他者の理解や尊重、自己開示のきっかけにもすることができたことも事業の成果と言える。

## 1 3 事業の課題

### (1) 事業の趣旨

今回の参加者のうち、昨年度も参加した子供が3分の2を占めた。体験活動の重要性を多くの子供たちに広く普及していくためには、新規の参加者をどう獲得するかということが大切であり、これまで参加したことのない子供や、家庭に「参加したい・させたい」と感じさせるプログラムを企画していくことが重要であると感じた。

### (2) 広報等

本事業は美瑛町近隣の市町村の対象全児童に学校を通じて配布した。直接家庭に届けることの重要性も感じたが、一方で経費がかかることや、作業の負担も大きくなるため、広報媒体の検討も併せて行う必要がある。

### (3) 事業プログラムの展開

プログラムについては、アンケートにあるように、一定の評価があったと言える。しかし、次年度以降は、継続して参加している子供達のマンネリ化を防ぐため、プログラムの部分的な修正ではなく、大幅な変更も考えなくてはならない。

クロスカントリースキーでは、技術習得だけでなく、ゲーム性や競争性を持たせる必要があると感じた。

夜のプログラムも、「雪あかり」ではなくナイトハイクなどを行い、雪の静けさも体験できるプログラムを考えなくてはならない。

